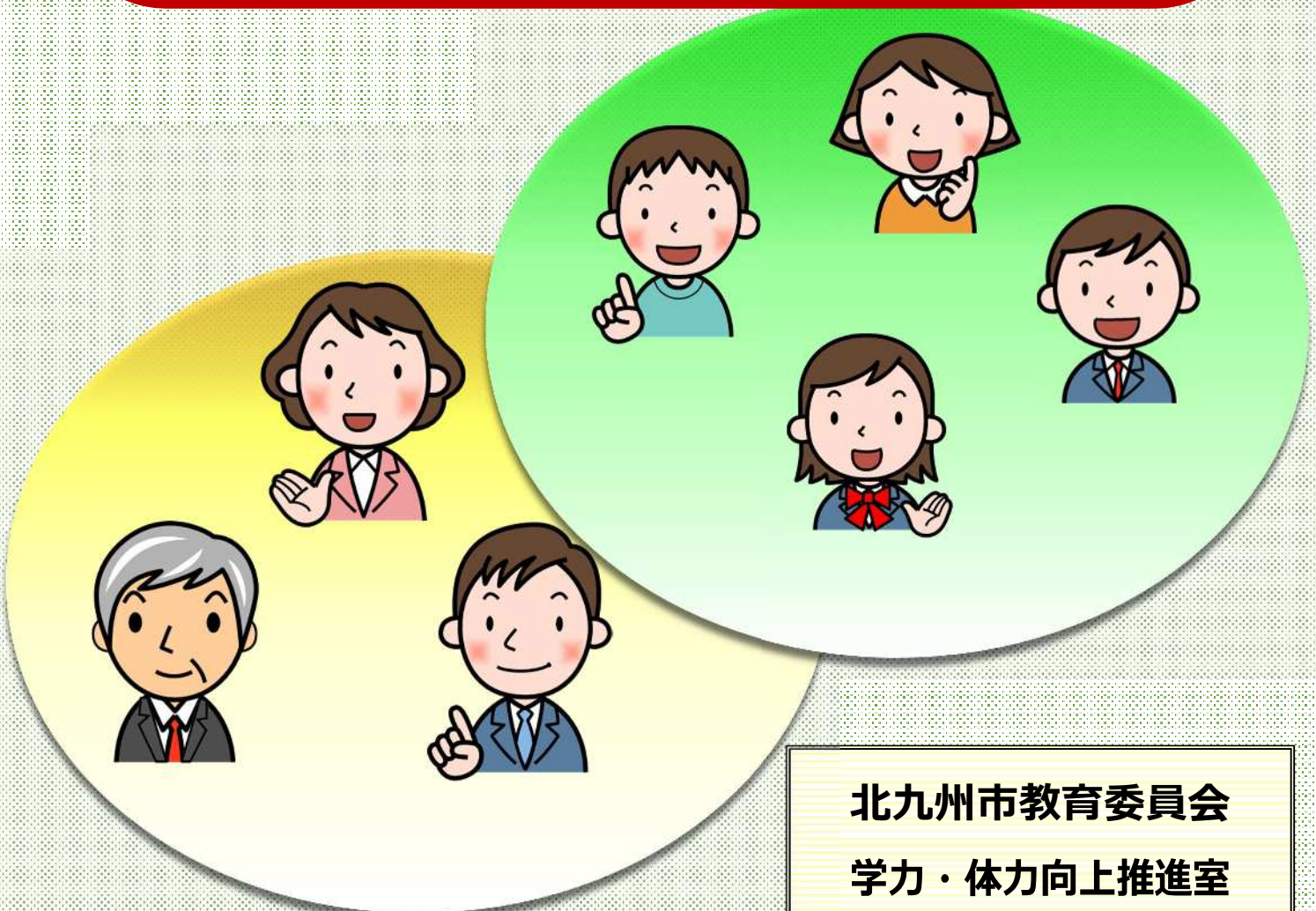


「わかる授業」づくりに つながる 授業の見方 ポイント集



北九州市教育委員会
学力・体力向上推進室



「授業の見方」のチェック



項目	内容	チェック
1	「授業構想シート（指導案）」は、ゴール（子どもの姿）を意識してつくられていましたか？	→ P 3
2	「学び合いの基盤」は形成されてきましたか？	→ P 5
3	発問は意図が明確で、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするものになっていましたか？	→ P 7
4	「めあて」は、子どもが見通しをもてるものになっていましたか？	→ P 9
5	課題に対して、自分の考えを書く（表現する）活動を位置付けることができていましたか？	
	① 個で考える場面は位置付けられていましたか？	→ P 11
	② 個で考えを再構成する場面は位置付けられていましたか？	→ P 13
6	話し合う活動などの、子ども同士の意見交流で、相手に理解してもらえる主張ができていましたか？	→ P 15
7	「机間指導」は意図をもってできていましたか？	→ P 19
8	子ども一人一人が「めあて」に対応した「まとめ」を書くことができていましたか？	→ P 23
9	「振り返り」の時間を確保し、子どもの言葉で書くことができていましたか？	→ P 25
10	「板書」は、構造的で、子どもの思考を助けるものになっていましたか？	→ P 27
11	「配時」に注意がはらわれ、計画的に授業を進められていましたか？	→ P 29

はじめに 「授業の見方」を身に付け、自分の授業の改善につなげましょう。

ポイント

「授業の見方」を身に付けると「授業の本質」や「子どもの変容」を見抜くことができるようになり、「わかる授業」を実現することにつながります。



◆ こんなこと、ありませんか…



授業参観でどこをどのように見たらよいのかわからないな。

授業を見た後、どのように自分の授業に生かしたらよいのかな。



他者の授業（または録画した自分の授業）を客観的に「見る」ときに、「自分だったらどうするか」という意識をもつことから始めましょう。参観した授業のよさや課題を、今までの「自分の授業」にも生かすことができます。



◇ 「授業の見方」を身に付けると…

- ① **授業の本質を見抜くことができる。**
→ ねらいに沿った授業の実現につながります。
- ② **子どもの変容を見抜くことができる。**
→ 効果的な「価値付け」「問い返し」「個に応じた指導」などにつながります。

「わかる授業」の実現につながります。

「わかる授業」づくり **5**つのポイント

- 1 「学び合いの基盤」
- 2 板書には、必ず「めあて」、「まとめ」と「振り返り」
- 3 子どもの思考を深める「発問」の工夫
- 4 1単位時間の中に「話し合う活動」と「書く活動」
- 5 「まとめ」と「振り返り」終わりの5分の確保



授業で見られた子どもの姿が、教師のどのような指導の仕方によって生まれたのかを見だし、「わかる授業」を目指して授業改善を行っていきましょう。「職員室で授業を語る文化」を醸成し、教師相互による授業改善を実現しましょう。



授業を参観するときの心構え

事前

- 授業構想シート（指導案）を読み込んでおきましょう。
- 教科書・学習指導要領を見ておきましょう。
- 自分ならこうするという考えをもっておきましょう。

授業後に、子どもがどのような姿になればよいのかという「ゴール」の姿を、子どもの「発言や行動」のレベルで具体的にイメージして参観しましょう。



授業中

- 記録用紙やバインダーを持参しましょう。
- メモをとりましょう。
(教師や子どもの発言や行動、板書、自分の意見など)

教師のどんな行為によって、子どもの反応が引き出されたのかを記録することが大切です。その記録があることで、子どもの変容や、教師の手立ての有効性を客観的に検証することができます。



協議会

- 子どもの反応や、教師の手立てについての授業記録を基に、自分ならどうするのかという意見を述べましょう。
- 授業を参観させていただいたことが、自分の授業力向上につながっているという感謝の気持ちをもちましょう。

1時間の授業にかける「授業者」の熱意に応えるためにも、授業中に見取った客観的な「事実」や、自分ならどうするのかという「代案」を示しながら意見を述べるのが大切です。



1. 「授業構想シート（指導案）」は、ゴールを意識してつくられていますか？

ポイント

「授業のゴール」を意識して「めあて」や「教師の手立て」が計画されているかを見ましょう。



単元・本時のねらいが適切に設定されているか。

※ 学習指導要領解説や北九州スタンダードカリキュラム等を参考に

<ねらい>と一致した「まとめ」か。

「まとめ」に向かう「めあて」になっているか。

本時のねらいの達成に向けて、問題意識をもたせたり、子どもの思考を整理・方向付けたりする活動や働きかけになっているか。

【発問・手だて】には、主体的・対話的で深い学びになるための具体的な発問・手だてになっているか。

【支援を要する子どもへの発問・手だて】には、想定される子どもの実態に合わせた具体的な発問や手だてになっているか。

本時のゴール（授業前後の子どもの変容）を、子どもの言葉で具体的にイメージすることができているか。

まとめにつながるキーワードが強調され、子どもの思考を整理する構造的な板書となっているか。

授業後の子どもの姿を具体的にイメージすることは、そこに至るまでの子どものつまずきや反応も具体的に想定しやすくなるため、実態に合った教師の手だてを構想することができるようになります。



授業づくりのポイント ～「まとめ」から授業を設計しよう～

授業構想シート（小学校3年算数科）【单元名】「 重 さ 」（1時間／全8時間）

■本単元のねらい

・ ものを持ち上げる活動や、目的に応じて適切に重さの見積もりをしたり計器を選んだりする活動を通して、重さについて理解し、その普遍単位を知り、計器を用いて測定できるようにする。

<本時のねらい> ※ めざす子どもの姿

○ 基準量の幾つ分の考えを基に、重さの測定の仕方や単位を用いた表し方を考えることができるようにする。

【まとめ】 ※ <ねらい>を子どもの言葉で

重さも、「同じもののいくつ分」で表すと、くらべやすい。

【めあて】 ※ まとめとの整合性 子どもの言葉で

天びんを使って、どちらがどれだけ重いかくらべる方法を考えよう。

【めあて】を生み出す働きかけ

・ 重さの近い三角定規とペンを提示し、どちらが重いかを問いかける。

【追究する活動や働きかけ】主体的・対話的で深い学び

- 身の回りにある文房具を両手に持ち、「どちら」が重いか、判断する活動をする。
- 三角定規とペンのどちらがどれだけ重いかについて、天秤を使って調べる方法を考える。
- 三角定規に小石を付け加えて、天秤をつり合わせる考えと、たくさんある1円玉の数で重さを比べる考えの違いについて比べる。

【発問・手だて】

・ 単元導入数日前から、教室に天秤を置いておき、自由に触れることができるようにしておく。

【支援を要する子どもへの発問・手だて】

・ 三角定規とペンの重さを1円玉の数で表すことができるように、三角定規は1円玉何枚でつり合うのか、実際に確かめる活動を設定し、「ペンは1円玉何枚でつり合うかな。」と尋ねる。

【発問・手だて】

・ 重さも長さやかさと同様に、「同じもののいくつ分」で表せそうだと気付くことができるように、「どれだけ重いか」と尋ねる。

【振り返り】

例：どれだけ重いかを調べるときは、小石のように重さが違う物を探すより、1円玉のように同じ物を使って何個あるかを調べた方が簡単だとわかりました。「同じ物のいくつ分」という考えは、長さやかさでも使ったけど、それと同じだと思いました。いろいろな物の重さを量りたいです。

板書計画

2. 「学び合いの基盤」は形成されていきましたか？

ポイント

学び合いの基盤には、「時間を守る」「気持ちのよい挨拶」「正しい姿勢」「ルールを守って発言する態度」「学習に使う道具の準備」などがあります。



チェックポイント（例）

授業の心構え

- 始業のチャイムと同時に、授業が始められていますか。
(着席・学習用具の準備など)
- 始業時、終業時の挨拶がそろっていますか。

気持ちよく挨拶を始めることができることを大切にしましょう。「粘り強く待つ」ことや、「できたら心からほめる」ことが重要です。



教室環境

- 子どもが授業に集中できる環境になっていますか。
(シンプルな前面掲示)
- 教室内は整理・整頓されていますか。
- 子どもの机の上には必要な道具を置く位置がそろっていますか。

学校のきまりとして全クラス統一して約束事を確認しておきましょう。誰にとっても見やすい、分かりやすい環境を心がけましょう。「環境が人をつくる」という言葉があります。望ましい環境で、子どもの学びの充実を目指しましょう。また、忘れ物をしてしまう子どもに対しては、忘れ物をしない方法を一緒に考えて実践させましょう。



授業中

- 「共感的な人間関係」が築かれていますか。
(例：相手のことを考えて話す、話す人を見て最後まで話を聞く など)
- 全員が授業に集中していますか。
- 発言の仕方、聞き方、ノートの書き方は、学校のきまりに沿っていますか。
- 考える時間、話し合う時間、書く時間などの切り替えができていますか。

子どもの集中力が続かないとき、子どもの「先生、分からないよ」というサインかもしれません。机間指導で子どもの状況を把握し、個に応じた支援を充実させましょう。



一人一人の子どもの学習への構えを作ることは、確かな学力を支える基盤となります。学校の実態に応じたきまりを作成し、全教師による一貫性のある指導をしましょう。子どもたちが進級した際に、きまりの違いで混乱することなくなります。



【参考】「教師のしおり」P114～115

× モ

3. 発問は意図が明確で、様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするものになっていましたか？

ポイント



発問が「本時のねらいの達成（まとめ）に直結する」「子どもの思考を深める」ものになっているかどうかを見ましょう。

◆ ①と②の発問のちがいは？



①水分子を表す化学式は何ですか？

②化学反応式を完成させるためにはどのようなことに注意したらよいでしょうか？



① のように、答えが限定される発問を、「**閉じた発問**」といいます。

② のように、答えが限定されない発問を、「**開いた発問**」といいます。



どちらも大切な発問です。ただし、「閉じた発問」ばかりだと、子どもの思考を促すことができません。本時で子どもに「何を考えさせたいのか」を明確にして、「閉じた発問」と「開いた発問」が**使い分けられているか**を見ましょう。



◇意図が明確で、様々な考えを引き出したり思考を深めたりする発問とは

閉じた発問



化学変化を化学式や元素記号であらわしたものは何でしょうか？

化学反応式です。



開いた発問



では、化学反応式を完成させるためにどのようなことを注意したらよいでしょうか？



物質名で書いたものを化学式で表していくといいね。

最初は、化学反応を物質名で書いていく方がいいよ。



化学式を原子モデルで表して考えた方がいいと思うよ。化学変化の前後で原子の数が違うところは、数をそろえなければいけないと思うよ。



化学変化の前後で原子の数がそろったら、増やした化学式の前に分子の数を示す数字を書いて化学反応式を完成させたらいいのかな。



みなさん、いろんな注意点到気付いていますね。では、みなさんから出た注意点をもとに、化学反応式を完成させていきましょう。

4. 「めあて」は、子どもが見通しをもてるものになっていましたか？

ポイント

子どもたち一人一人が学習の見通しをもち、学級全体で学習のゴールをイメージできるような「めあて」になっていたかどうかを見ましょう。



◆ こんなこと、ありませんか…

めあて 直角三角形の面積を求めよう。



直角三角形の面積を、どうやって求めたらよいか、全然分からないよ。



私は、もう面積の公式を知っているから、式と答えはすぐに求められるよ。



このめあてでは、三角形の面積を求めたら、終わりになるのではないのかな？ 求め方を考えさせることがねらいなのですが…。



今日の「めあて」は何がよいですか？



そう言われても…。ええっと、何がいいのかな？



前の時間に何をしたかな…？



何の方向付けもなく、いきなりめあてを考えさせても、子どもは本時のねらいに沿っためあてを考えることができません。

これでは、子どもは学習の見通しや解決したいという意欲をもつことができませんね。そうすると、子どもたちが主体的に本時のねらいを達成することが難しくなります。



◇子どもが見通しをもてる「めあて」になっている授業とは

めあて 図を使って、
直角三角形の面積の求め方を説明しよう。



今までに長方形の面積の公式は学習してきたよね。直角三角形を長方形に変えれば、**長方形の面積の公式が使える**だね

今日のゴールは、直角三角形の面積の求め方を説明できるようになることだね。**図を使えば、説明がしやすくなる**ね。



「めあて」に「見通し」が入ったことで、自分の考えをもつことができる子どもが増えました。また、**ゴールが明確**に示されたことで、個人思考や学び合いでの「目的意識」が明確になり、より主体的に学習に取り組む姿が見られるようになりました。

「めあて」には「個の思いや問い」を学級全体で「共有」できるよさがあります。多くの教科等で「めあて」を設定するのはこのためです。教科等の特性を考えながら、「めあて」を設定することが大切です。*1



*1 道徳の時間の導入では、「めあて」ではなく、「ねらい」を基に価値への方向付けを行い、子どもに課題意識をもたせた上で学習を進めます。ただし、価値への方向付けを「めあて」として示し、学習を進める場合もあります。

5. 課題に対して、自分の考えを書く（表現する）活動を位置付けることができていましたか？

① 個で考える場面

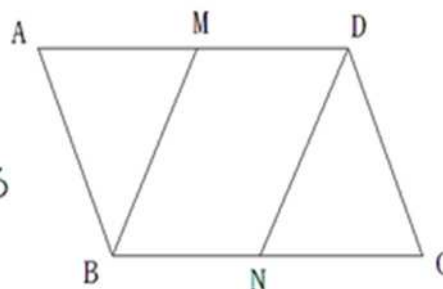
ポイント

個で考える場面では、自分の考えをもち、他者と考えを比較・検討するための土台として書く活動を位置付けているかを見ましょう。



【中2 数学科「平行四辺形になる条件」】

□ABCDの辺AD, BCの中点を、それぞれ、M, Nとします。
このとき、四角形MBNDは平行四辺形であることを証明しなさい。



◆ こんなこと、ありませんか…



この問題は、先生が証明するから見ていてください。

先生に習った通りに書けばいいんだね。



でも、他にも違う考え方がないのかな？

上の例のように、子どもが考えるべきところまで、先生が説明しては、考えを深めることができません。自分の考えを書く（表現する）活動を位置付けることが大切です。



◇ 課題に対して、個で考える場面が位置付けられた授業とは

○ 自分の考えを書くことができる場合



自分で証明の仕方を考えてノートに書きましょう。



四角形 ABCD は平行四辺形だから…

○ 自分の力で考えることが難しい場合



次の証明には、必要のない部分があります。
それはどこでしょう？

(証明)

四角形 ABCD は平行四辺形だから、

$AD \parallel BC, AB \parallel DC \dots ①$

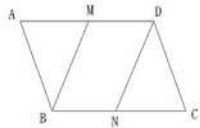
$AD = BC, AB = DC \dots ②$

ここで、①より $AM \parallel NC, MD \parallel BN \dots ③$

また、②と点 M, N はそれぞれ、辺 AD, BC の
中点であることから

$AM = NC, MD = BN \dots ④$

③, ④から、1組の向かい合う辺が等しくて
平行だから、四角形 MBND は平行四辺形である。



図にチェックを入れて、平行四辺形になる
条件にあてはまるところを確認してみよう。



子どもの実態に合わせて、発問や指示の内容を変えて、書く（表現する）活動を位置付けましょう。個の考えを書く時間を設定することは、子どもの思考を整理し、自己の考えを表出する力を育むことにつながります。すべての教科において取り組んでいきましょう。



【参考】「話し合う活動」QA集P12

②個で考えを再構成する場面

ポイント

自分の考えを再構成する場面では、他者と話し合った後、自分の考えを見直し、まとめるために書く活動を位置付けていたかを見ましよう。

◆ こんなこと、ありませんか…

【小5 社会科「わたしたちの暮らしと国土」】



沖縄県の気候や人々の暮らしの様子について、グループで話し合ったことをまとめましよう。

降水量が多いのに、どうして多くの家の屋根の上に「貯水タンク」があるのかな。

夏に台風が多く来ることが、教科書〇ページの資料から分かります。だから、教科書〇ページの資料のように、家の周りに風よけのための壁や防風林を作っているんだね。



島だから、川が短く、たくさん雨が降ってもすぐに海に流れてしまうので、教科書〇ページの資料のように、家の屋根には貯水タンクをつけて、水をためるようになっています。



では、先生が出た意見をまとめます。みんなの考えは、こういうことですよね…。

話し合った後に、教師が「つまり…」とまとめてしまうと、子ども自身が考えを広げ、深めたかどうかを自覚することが難しくなります。授業の前に自分がもっていた考えに、「話し合う活動」で出された友達の考えを関係付けて、考えを「再構成」する場を設けましよう。



◇ 課題に対して、個で考えを再構成する場面が位置付けられた授業とは



話し合ったことを基に、もう一回、自分の考えを見直しましょう。話し合う前と、どのように考えが変わったかが分かるように、ノートに書きましょう。

ぼくは、今の家のつくりを調べていたけど、〇〇さんが調べていた、伝統的な家のつくりをつなげると、台風や暑さに備える工夫をしていることが分かりました。



「貯水タンク」が家の屋根にあるわけを、〇〇くんは降水量や地形とつなげて考えていました。貯水タンクがあるのは、便利だからと思っていたけど、水不足に備えているということが分かりました。



ノートを見て、「話し合う活動」の前と後における考えの変容が分かるようにしましょう。「話し合う前」に書いた部分に、「話し合った後」に新たに知ったことを「吹き出しでつけ加え」たり、「考えが変わった部分は消しゴムを使わずに二本線で消して書き直し」たりすると、自己の考えの変容を自覚しやすくなります。



話し合う活動を終えて、自分の考えを再構成することで、考えの変容が見られたところが明らかとなり、それが「まとめ」や「振り返り」につながります。



【参考】「話し合う活動」QA集P13-14

6. 話し合う活動などの、子ども同士の意見交流で、相手に理解してもらえる主張ができていましたか？

ポイント

話し合う活動で出す意見は「主張と根拠、理由」がセットで引き出せているかを見るようにします。



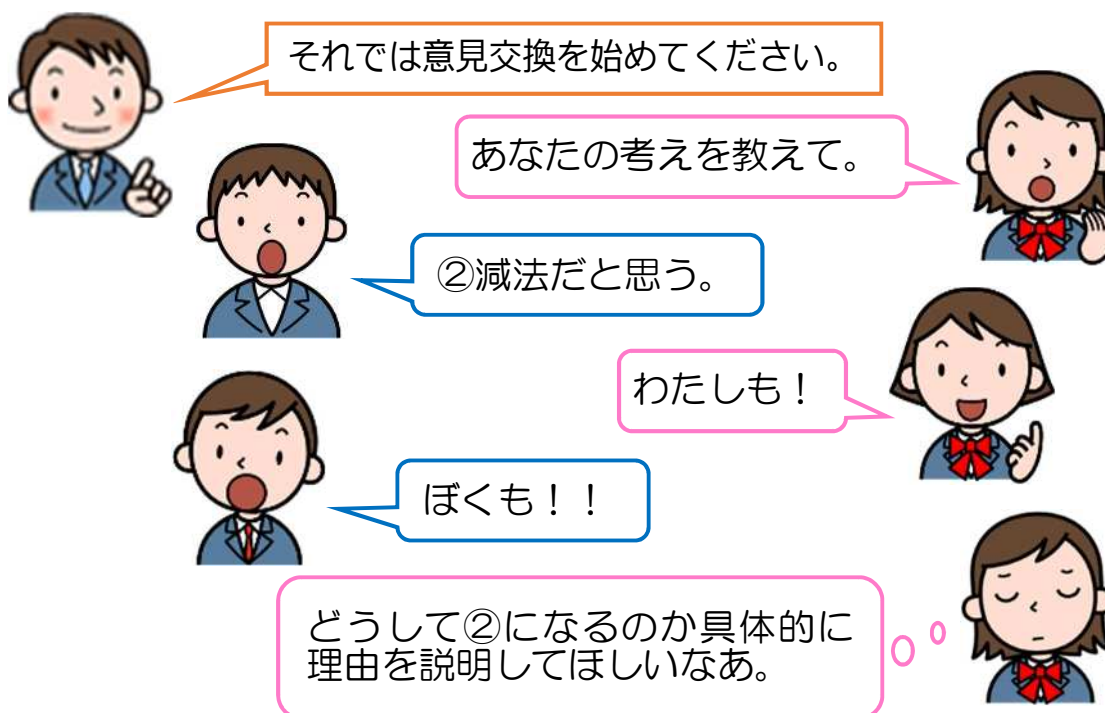
数学科の例

(例) 自然数だけで計算して、答えがいつも自然数になるとは限らないものはどれですか。

- ① 加法 ② 減法 ③ 乗法 ④ 除法

◆ こんなこと、ありませんか…

【中1 数学科「数の世界のひろがり」と四則計算】



ただ、「話し合い活動をしましょう。」というだけでは、「主張と根拠・理由」を交流することはできません。



◇ 子ども同士の意見交流で、相手に理解してもらえる主張ができている授業とは



それでは意見交換を始めてください。その時に、どうしてそう考えたのか、自分の考えの理由も具体例を使って説明しましょう。



あなたの考えを教えて。

②減法だと思う。なぜなら、 $5-2$ は3で自然数だけど、 $2-5$ は -3 で、自然数にならないから。



なるほど。④ 除法もそうだよ。なぜなら、 $5 \div 2$ は2.5だから自然数にならないから。じゃあ、自然数ではなく整数の集合で考えた場合、いつでも計算できるとは限らないのはどんなときだろう？

「主張と根拠・理由」が話題にあがるように、上の例のような具体的な指示を出しましょう。その際、本時のねらいを達成した子どもの姿が、どのようなものかを考えましょう。



国語科の例

◆ こんなこと、ありませんか…

【中2 国語科「走れメロス」】

めあて

ディオニス王はどのような人物(性格)なのか、話し合おう



ディオニス王は、どんな人物なのか話し合ってみましょう。

意地が悪い、暴君だと思います。



人を信じられない孤独な人だと思います。

ひげが生えていて、大きな体だと思います。

でも、本心は人を信じたいのかもしれないよ。

ただ、「どんな人物なのかを話し合ってみましょう」だけでは、「思いつき」「主観が中心」となります。教材文の記述などを使って、根拠を明確にした話し合いをすることが大切です。



◇ 子ども同士の意見交流で、相手に理解してもらえる主張ができている授業とは

めあて

ディオニス王はどのような人物(性格)なのか、話し合おう



ディオニス王は、どんな人物なのか話し合ってみましょう。



意地が悪い暴君だと思います。

でも、本心は人を信じた
いのかもしれないよ。

どうしてそう思うのか、文章の中から自分の考えの根拠となる部分を取り上げて、話し合ってみよう。



国民のことを第一に考える人だと思います。「わしだって平和を望んでいる」と書いてあります。平和にするために暴君になると決めたのでないでしょうか。



本当は優しい人だと思います。「その王の顔は蒼白で、眉間のしわは、刻み込まれたように深かった」と書いてあるから、今でも自分のやっていることを悩んでいるのではないのでしょうか。

「疑うのが正当な心がまえなのだと、わしに教えてくれたのは、おまえたちだ」と書いています。昔は人を信じていたけれど、何かがあって人を信じることができなくなったのかもしれない。

各教科の「話し合う活動」で、根拠を基に話し合うことが大切です。国語科では「言葉・文・文章」、社会科は「調査や諸資料」、算数・数学科は「定義や性質」、理科は「観察・実験の結果」というように、教科等の特質に応じて根拠を見だし、具体的に考えるようにしましょう。また、自分の意見を述べるときには、結論を先に述べ、「なぜなら、…だからです。」と、理由を明確にしましょう。



【参考】「子どもの思考を広げ、深める「話し合う活動」Q&A集【中学校版】 p 10

7. 「机間指導」は意図をもってできていましたか？

ポイント

授業者がどのような目的をもって机間指導をしているかに着目しましょう。

【机間指導の目的】

- ① 個の考えや理解度の把握
- ② つまずきや学習規律面の指導



目的① 個の考えや理解度の把握

◆ こんなこと、ありませんか…



はい、5分経ちました。みんな自分の考えを書きましたね。では、自分の考えが言える人、発表してください。

はい。ぼくの考えは～



先生は、子どもの様子を見て歩いていただけだったなあ。一人一人の考えを見取ることができたのかな。



明確な目的もなく、教室内を歩き回るだけでは、指導には生かされません。目的をもって指導に生かす、「机間指導」となっているか、教師の動きや声掛けの意図を考えながら参観することが大切です。また、子どもたち一人一人の様子や記述内容にも目を向け、学習状況をとらえましょう。

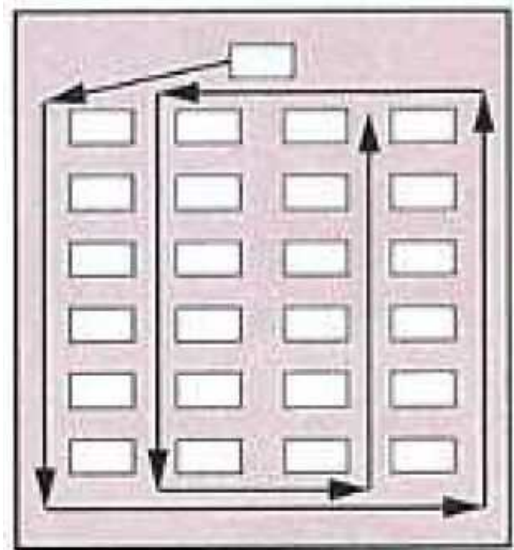


◇ 個の考えや理解度を把握するための「机間指導」ができている授業とは

本時のゴール（ねらい）につながるキーワードは何か意識して見るようにします。



視点を決めておき、一人5秒程度で座席表を見ながら全員を見取って回ります。



【回り方】

机間指導の目的は、

1 個の考えの把握

子どもの考えを把握し、学級全体での話し合いを深化させるのに役立つ。

2 理解度の把握

ねらいへ向けた達成度を把握し、個別指導や一斉指導に役立つ。

というものがあります。



参観の際に、チェック方法（チェックリスト、座席表の活用など）、意図的な回り方、時間、指導の観点、などに留意し、机間指導から得た情報を基に、どのように一斉指導や個別指導に役立っているかを見ていきましょう。



【参考】「教師のしおり」P104

目的② つまづきや学習規律面の指導

◆ こんなこと、ありませんか…



はい、5分経ちました。発表してください。

ぼくの考えは～




まったく話さない子どもがいますね。考えをつくる
るとき、質問もなく静かだったけれど、あの子は
鉛筆が動いていませんでしたよ。きっと、困って
いたのでしょうね。



机間指導では、一人一人の子どもが課題に対して自分
の考えをもつことができるように支援することが大切
です。つまづきが見られたり、学習規律面で指導が
必要であったりする子どもに対する支援が効果的で
あったかを見るようにしましょう。



◇ つまづきや学習規律面の指導をするための「机間指導」ができている授業とは

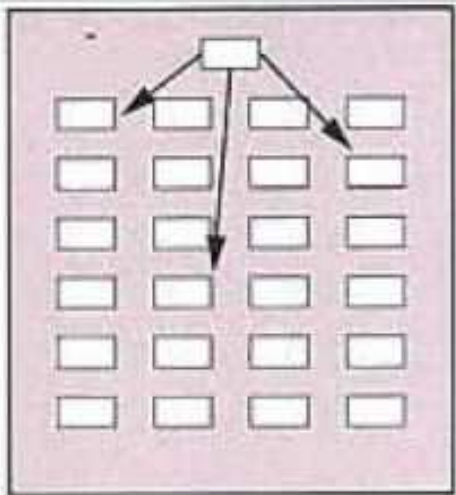


気になる子どもから先に回り、その後全体へ。そしてもう一度気になる子どもへ回ります。

つまづいている段階や原因をていねいに見取り、個に応じた指導を行っていきます。

規律が乱れる原因を取り除き、学習に集中できるようにすることも大切です。

【回り方】



机間指導の目的には、

- 3 つまづきの発見・指導
個別の支援が必要な子どもに重点的な指導を行う。
- 4 学習規律面の指導
学習規律面で指導が必要な子どもに個別指導を行う。

というものがあります。



小集団への机間指導、ティーム・ティーチングでの机間指導

個別指導のほかにも、グループでの話し合い活動など小集団の机間指導もあります。また、ティーム・ティーチング（TT）を行うと、きめ細かな机間指導を行うことができます。役割を明確にし、情報を共有することが大切です。

小集団への机間指導のポイント

- ・話し合いの課題が明確になっているか
- ・司会者が適切に進めているか
- ・全員が参加しているか
- ・どのグループがどのような結論に達しているか

TTでの机間指導の主な留意点

- ・机間指導の計画を共有しておく
- ・役割分担を明確にしておく
- ・授業中に学習状況を共有する
- ・授業後、次時に生かす情報を共有する

【参考】「教師のしおり」P104～P105

8. 子ども一人一人が「めあて」に対応した「まとめ」を書くことができていましたか？

ポイント

以下の点に気を付けて見ましょう。

- 「めあて」と「まとめ」の整合性がとれているか。
- 子ども一人一人が「まとめ」を書くことができていますか。



◆ 本時まとめをする場面で、こんなこと、ありませんか…



今日は、たくさん意見が出て、よかったですね！
時間がないので、まとめはしません。

話合いでたくさん意見が出たとしても、「めあて」に対応した「まとめ」がないと、今日の授業で何が分かったのか、はっきりしませんね。



「まとめ」を、先生が黒板に書きます。ノートに写しましょう。

「まとめ」を、いつも教師がしてしまうと、多くの情報から大切なことをまとめる力が身につけませんね。



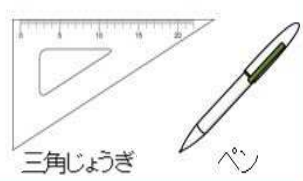
◆ 子ども一人一人が「めあて」に対応した「まとめ」を書くことができる板書とは

【小3 算数科「重さ」】

11/28 重さ

もんだい

どちらがどれだけ重いですか。

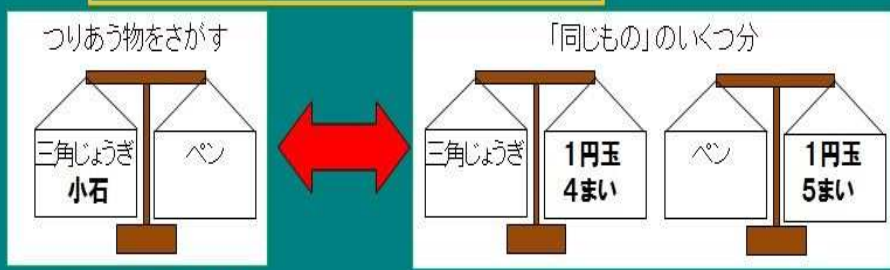


三角じょうぎ ペン


めあて

天びんを使って、どちらがどれだけ重いかくらべる方法を考えよう。

「同じもの」のいくつ分




つりあう物をさがす



三角じょうぎ ペン
小石

ペンは 小石1つ分 重い。

ペンが 1円玉1まい分 重い



三角じょうぎ 1円玉
4まい ペン 1円玉
5まい

見通し

- 「どちら」が重いか
→ 天びんを使う。
- 「どれだけ」重いか
→ 長さ・かさの学習
「同じもの」のいくつ分

○ つりあう物をさがすのが大変。

○ 小石の重さは一つ一つちがうから、分かりにくい。

○ 1円玉は同じ重さのものがたくさんある。

○ 重さを、4まいや5まいのように、**同じもののいくつ分**で表すと、くらべやすい。

まとめ

重さも「同じもののいくつ分」で表すと、くらべやすい。

まとめにつながる子どもの意見を板書する

めあてに対応したまとめを子どもから引き出す

授業の流れが分かるような板書の工夫をし、キーワードを示すなど、一人一人の子どもが「まとめ」を書けるようにすることや、子どもの意識が「まとめ」に向かうような授業展開をすることが大切です。



一人一人が本時の学習内容について、自分の言葉でまとめることは、思考力・判断力・表現力等を育成することにつながります。教師は、子どもが「まとめ」を書いているときに机間指導をして、ねらいが達成できていない子どもを支援します。



【参考】「めあて・まとめ・振り返り」QA集【小学校版】P13

9. 「振り返り」の時間を確保し、子どもの言葉で書くことができましたか。

ポイント

振り返りを通して子どもが、A「学習の過程や学び方」、B「知識・技能などの広がりや深まり」、C「情意や意欲の向上」という視点で自分の変容を自覚できているかどうかを見ましょう。



◆ こんなこと、ありませんか…



もうすぐ授業が終わるので、振り返りは次の授業までの宿題にします。

今日の内容はよく分かったけど、家に帰ったら忘れてるかも。



一時間の授業の中で、「めあて」「まとめ」「振り返り」の授業の流れを大切にしないと、学習内容の定着が見込めません。



今日の学習を通して思ったこと、考えたことを自由に書きましょう。

今日の学習は、いろいろ分かったので、とても楽しかったです。また、次の学習もがんばりたいです。



「感想を自由に書きましょう」という指示だけでは、子どもは「いろいろ分かった」や「楽しかった」、「がんばった」という漠然とした「振り返り」を書いてしまいます。



◇ 「振り返り」の時間を確保し、子どもの言葉で書くことができている授業とは



今日の学習内容を通して、次の学習でやってみたいことを書きましょう。



今日は光合成によって二酸化炭素が使われたことを学習したので、次の授業では、光合成の仕組みについて学習したい。



今日は光合成によって二酸化炭素が使われていたけど、他にも光合成に必要なものは何かを知りたい。



学習内容の感想だけではなく、学習内容から次の学習のめあてにつながる内容や新たに生まれた疑問が書かれた振り返りになっています。

「振り返り」を書かせる際に、次のような「3つの視点」を基に、具体的な指示をすることが大切です。その際、単元を通して、A B Cどの視点について書かせるのか計画的に行いましょう。



◇ 「3つの視点」と具体的な指示の例

A 学習の過程や学び方

- 「最もためになったアドバイスと、その理由を書きましょう。」
- 「今日の学習がよく分かった(分からなかった)理由を書きましょう。」
- 「今日の実験で、最もがんばっていた友達とその理由を書きましょう。」

B 知識・技能などの広がりや深まり

- 「今日一番の『なるほど!』と、その理由を書きましょう。」
- 「今日の学習を通して、新たに気付いたことや考えたことを書きましょう。」
- 「『つまり』、『例えば』という言葉を使って、今日の学習をまとめましょう。」

C 情意や意欲の向上

- 「今日の学習で、新たに生まれた課題や疑問を書きましょう。」
- 「学習前と学習後の自分を比べて成長・変化したことを書きましょう。」
- 「次の学習で、やってみたいことを書きましょう。」

【参考】「めあて・まとめ・振り返り」Q&A集 p16

10. 「板書」は、構造的で、子どもの思考を助けるものになっていましたか？

ポイント



以下の点に気を付けて見ましょう。

- まとめにつながるキーワードがある。
- 子どもの考えや事柄などの関係性が見えるような矢印や囲みがある。

◆ こんなこと、ありませんか…

では、黒板をノートに写す時間をとります。

黒板を写すことが多いなあ・・・

黒板に白色しか使われていないからどこが大事か分からないなあ。

今日の学習は、どのように考えて進んできたんだっけ。

子どもの言葉をすべて使うと、情報量が多すぎて、何が大切か分からなくなります。また、色チヨークや枠囲みがないと、子どもが考えや事柄を関係付けることができません。



※色使いには、個別の配慮が必要な場合があります。

◇「板書」が、構造的で、子どもの思考を助けるものになっている授業とは

【小3 理科「豆電球にあかりをつけよう」】

☆ 子どもが思考しながら、問題解決の過程をとらえやすい板書に



キーワードを、大きく色チョークで表示



キーワードを使えば、まとめることができそう。



上の理科の板書では「問い→めあて→予想→調べ方→実験→結果→考察→まとめ」の問題解決の過程を可視化した構造的な板書となるように、意識しています。

板書が構造的になることで、キーワードや関係性がとらえられるようになり、子どもが自分の力で学習をまとめようとする姿になっていますね。



授業構想シートなどを使って板書計画を行うことで、子どもがねらいに沿ったまとめや振り返りがよりできるようになります。



【参考】「発問・板書」Q&A集 p18

1 1. 「配時」に注意がはらわれ、計画的に授業を進めていましたか？

ポイント

子どもも時間を意識しながら学習を進めていけるように活動の順序や時間配分が視覚化されているかを見るようにしましょう。



◆ こんなこと、ありませんか…



いつも時間通りに終わらないなあ

子どもたちがまだ考えているから、もう少し個人思考の時間を延長しよう。

時間をオーバーするか、予定していた他の活動（話し合う時間や全体で共有する時間、まとめの時間）が減ってしまい、教師主導の授業に陥ってしまうことになります。



チャイムが鳴っても終わらないなあ。
きっと今日も話し合いの時間が延長になるから、そんなにあわてることないな。

グループの話し合いが終わっていないので、延長してほしいです。



決めた話し合いの時間を度々延長してしまうと、時間内に効果的に話し合うという力が育たず、延長が常態化してしまいます。

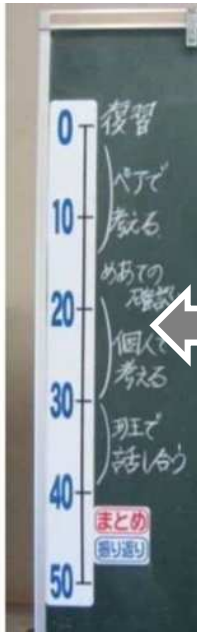


◇「配時」に注意がはらわれ、計画的に進められている授業とは

☆ 子どもたちが時間を意識して学習を進める環境づくり



「タイムスケール」を黒板に掲示して学習の流れを視覚化することで、子どもが常に時間配分を含めた主体的な学習のマネジメントを行う姿が見られるようになります。



タイムスケールの活用

次は考えたことを友達と話し合う活動だから、時間内にしっかり自分の考えを書こう。



掲示されたタイムスケールを確認し、次の活動を意識して学習を進める姿になっていますね。



次は班でまとめた考えを全体で発表するので、ホワイトボードを準備しよう。



教師の指示がなくても子どもが次の活動にスムーズに移り、活動時間が計画的に進んでいきます。

教師が授業づくりの段階で、学習のどのポイントでしっかり考えさせる時間を使うかなどを計画的に考え、まとめや振り返りを子どもがしっかりと自分の力で書くことができる十分な時間を確保していくことが大切です。





授業後の「協議会」は、どのように進めればよいですか？

ポイント

協議の視点を明確にするとともに、活発な意見交換を促すように、ワークショップ型の研修を取り入れましょう。

◆ こんなこと、ありませんか…



学校には、経験年数や専門性の異なる先生方がいます。それぞれの持ち味を生かすことで、協議会が充実します。協議の視点を明確にし、参加者全員が自分の考えを表出したり、他者と意見を交換したりする機会を設けることが大切です。



協議会で共有された「好事例」や「課題」は、その学校の児童生徒の実態に基づいています。そこから学校独自の授業スタンダードを作成するなどして、全学級で意識して取り組めるようにしましょう。



◇ このような協議会を目指しましょう

**マトリクスシートを
活用する場合**

授業分析の視点が明確になり、焦点化された助言が期待できます。ただし、視点以外の意見が出にくくなります。



協議の視点は、①思考ツールの有効性②全体で話し合う活動での意見の取り上げ方の二つです。付箋に、自分の考えを書いて、貼り付けてください。

付箋の書き方(例)

- 成果・課題・質問の3色を使い分ける
- サインペンで
- 1枚に1項目
- 時間を短縮したいときは、協議会前にシートに貼っておく

月 日 ○○科 ○年○組 授業者【 】

	視点1	視点2	その他
成果			
課題			
質			

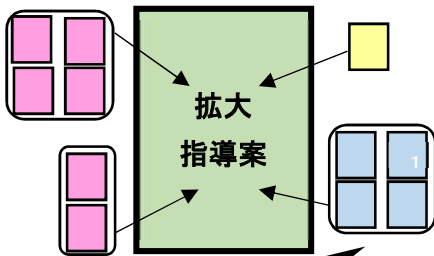
グルーピングをして、タイトルを付ける



小グループの交流で出されたタイトルを付箋に書き、全体のマトリクスシートに貼り付けることで、スムーズに全体で意見を共有することができます。

**拡大指導案を
活用する場合**

授業の展開や手だてについて、具体的に話し合うことができます。ただし、協議の内容が本時に限定されやすくなる面もあります。



**グルーピングをして
タイトルを付ける**



協議の視点は、授業者の支援に対する子どもの学びの様子です。付箋に子どもの学びの様子を書いて、拡大指導案の該当する部分に貼り付けてください。

拡大指導案の付箋が集中している場所に、発問や、教具等の提示のタイミングなどを書き加えることで、より具体的に協議を進めることができます。



おわりに

授業を見るときは、自分だったらどうするかという意識をもって見るのが大切だということが分かりました。また、「授業の見方」を身に付けることで、

- ・ 授業の本質が分かり、ねらいに沿った授業の実現につながる。
- ・ 子どもの変容が分かり、効果的な「価値付け」「問い返し」「個に応じた指導」などにつながる。

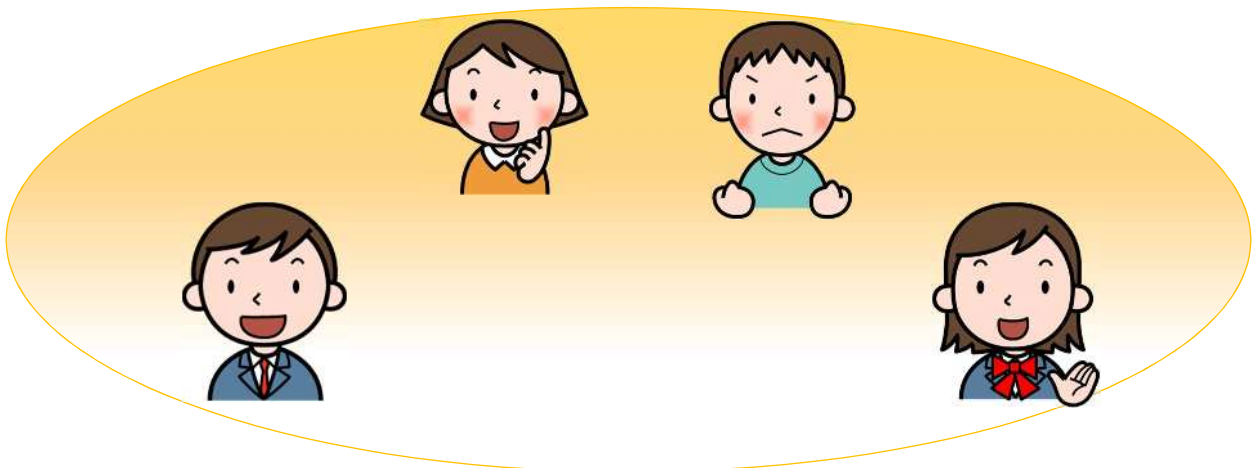


が分かりました。

通常、私たちが、他の先生の授業を見る機会は、年間で数回しかありません。その機会を十分にいかし、「わかる授業」づくりにつなげていくことが大切ですね。「職員室で授業を語る文化」を醸成し、教師相互による授業改善を実現しましょう。



授業者の先生が、何をねらい、そのために、どのような手だてをとり、それに対して、子どもたちがどんな反応をしたか、一つ一つ見ていくことで、子どもたちの思考やその背景にある既存の素朴な概念が見えてきます。また、発問や事象・資料の提示のように直前に行った手だてではなく、授業の前半でとった手だてが後半に反映されていることに気付くことができるようになります。さらに、単元の中や事前環境をつくることで関連づいてきたりする手だても見えてきます。子どもの姿から、多くのことを学び、自分の授業づくりにつなげていくことが大切です。



令和元年9月 初版発行

「わかる授業」づくりマネジメント研修2

～「授業の見方」の向上を目指して～

「わかる授業」づくりにつながる授業の見方ポイント集

北九州市教育委員会 学力・体力向上推進室

〒803-8510 北九州市小倉北区大手町1番1号

電話：093-582-3445